

「この人 30」

## 足立淑子 75歳 大阪府

**編集部** 俳句を始められたのはいつ頃から？

**足立** 平成元年頃、川柳を始めましたが、季語の美しさ、奥深さに惹かれて、ほぼ同時に俳句も始めました。平成十二年に、NHK俳句王国に出演しまして、当時、アナウンサーであった八木会長とお目にかかりました。後に「俳壇」で、「万愚節」、「微苦笑俳壇」の選者となられたので、投句を続けたのが、滑稽俳句につながっています。

**編集部** 滑稽俳句の魅力は、何でしょうか。

**足立** 何と言っても、くすっと笑えることです。自分が心の機微に触れる句を詠む喜びと、人様の楽しい作品に接する喜びと、どちらも楽しいですね。普段の生活で見聞きしたものを、作品にする面白さがありますし、世の中の動きにも敏感になりました。

**編集部** 俳句における「滑稽」とはどのようなものだとお考えでしょうか。

**足立** 「あくまでも品格を失わないようにしながら、人間の心の奥に潜む笑いを、表現する事だと思います。自分も楽しめ、他人も傷ついたり、不快な思いがないよう楽しめることが大事だと思います。

**編集部** 滑稽俳句協会への投句も、是非、お続けくださいますよう。

< 代表句 >

青息も吐息もなぜか徹くさい  
独り居にエンゲル係数のうなぎ  
宇宙人とピコピコ交わす初メール  
サングラス替えて男を寄せつけず  
マイペース崩さず春の海のたり